



London Kitchens

Jeu de Paume

Abigail Lane

アビゲイル・レーン artist & designer



ロフトいっぱいに広がる、アーティスティックな空気 An open living space where industry and the arts meet

ゆったりしたロフトは、気ままで自由な空間
ここで過ごす時間は、アートなハブニングでいっぱい
だから、おでかけよりも、ここに友だちを招きましょう。
アビゲイルの手がけた、小さなテーブルは、
のんびりと昼下がり、コーヒーを楽しむ場所。
窓辺のローテーブルにキャンドルを灯して、アベリティブ。
それから、大きな木のテーブルで、
アビゲイルの作る、おいしいディナーを開んで。
さあ、2匹の猫たちと一緒に、パーティタイム。







上: アビゲイルと一緒に冷蔵庫をのぞき込むのは、食いしんぼうの猫のミニ。もう1匹の黒い猫は、オースティン。
 下段: 『ショールーム・ダミーズ』で発表した作品たち。エレガントなフォルムのカップ&ソーサーには、口がグラフィカルにレイアウト。ハエやがいこつなどが、アビゲイルのモチーフ。



おいしい料理を作るキッチンが、この広いロフトの中心

アビゲイルは、ヤング・ブリティッシュ・アーティストと呼ばれる、1990年代ごろからコンテンポラリー・アートの世界で注目される世代のひとり。いまでは、ヴィヴィアン・ウエストウッドで働いていたブリジット・ステプティスと、プリントデザイナーのボブ・ペインと協力して、「ショールーム・ダミーズ」を立ち上げ、オリジナルの壁紙や洋服、雑貨などを発表している。

アビゲイルが暮らしているのは、イースト・ロンドンにあるハックニー・ウィック。このあたりは、もともと工場が立ち並ぶ地域で大きな建

物が多いので、アーティストたちにとって、アトリエ兼住まいとして暮らしやすい町。彼女が住む部屋は、バーバリーがコレクションをストックしていた倉庫の最上階。広々とした空間を、他のアーティストたちとシェアしている。「キッチンがわたしの心よ」というお料理好きなアビゲイルにとって、部屋の中心は自分で作り上げたキッチン。ブルグレーにペイントした壁には、大きめの白いタイルをアクセントに、収納はもともと置かれていた金属の工業用家具をリサイクル。大きなテーブルは、友だちを招待するディナーで大活躍。









左上: インドで見つけたブルーの水切りかご。アビゲイルのキッチンには、他にもニューヨークやパリ、さまざまな国からやってきた調理器具がミックスされている。**左下:** ハエをモチーフにした作品。小さなハエが作品の中では大きくなって、現実離れした存在になるのがおもしろいというアビゲイル。

